

■村田経芳 陸軍軍人、小銃設計者。初の純国産の小銃“村田銃”を発明し、改良連發銃は日清戦争の主力になった。

むらたつねよし

適塾ホブン・1838= 鹿児島城下二本松馬場の日置屋敷で、薩摩藩士村田蘭斎の長男に生まれる。

阿部正弘首座1845= 7歳：

・・・・・ 1847= 9歳：

—鉄砲を重視する合伝流兵学を修めたことから、砲術に关心をもち、

—はじめ荻野流砲術を、

ペリー来航・1853=15歳：江川太郎左衛門の門人成田正右衛門に西洋砲術を学び、砲術館の砲術書籍掛となる。

松下村塾・・1856=18歳：

五ヶ国条約・1858=20歳：他藩から招かれた蘭学者石川確太郎に国際情勢や軍学を学び、“銃器一定”的必要を感じる。

桜田門外変・1860=22歳：

生麦事件・・1862=24歳：*後装銃研究のため家計が困窮、島津久光御側役の大久保利通に相談した結果、お手許金が下り、{御試元込銃製造所}までつくられた。

8月18日政変 1863=25歳：藩が西洋銃の必要に目覚め、製造所が拡張される中、後装銃を発明する。

禁門の変・・1864=26歳：*家督を相続、後装銃を完成、軍役奉行の伊知地正治や西郷従道らが見学に訪れ、精錬の銃数口を藩主に献げる。また、“銃器一定”をかけた天保山台場での藩内の射撃競技に勝利。

薩摩藩土密航1865=27歳：京都の風雲急を告げ、洋銃買入掛に任命された大山巖が南北戦争終結で価格の下落して大量調達したミニエー銃が後装銃でないことを知り、悔しがる。

大政奉還・・1867=29歳：イギリス式練兵のため江戸に留学。偶々江戸に出てきたパークスの護衛兵から、シーボルトに通訳して貰いながら、射撃術を習う。薩摩藩邸でイギリス兵と射撃競技をして勝利。福沢諭吉の訳したイギリスの「雷銃操法」を読み、一旦鹿児島に帰った後、京都伏見へ入り、

明治維新・・1868=30歳：<戊辰戦争>に、砲術師範役として養成した兵とともに従軍、さらに、越後長岡に進軍。

廃藩置県・・1871=33歳：上京し、創設された陸軍の大尉に任せられ、射的掛となる。

学問のすすめ1872=34歳：本牧での小銃的射会で、外人200余名を斥けて優勝。

明治6年政変 1873=35歳：兵学寮付となり小銃の研究を再開、射的学校(戸山学校)付となって本格化。陸軍卿山県有朋に願い出て、自ら考案の銃の製作も開始する。西郷隆盛が来訪し、“軍銃一定”について質される。

佐賀の乱・・1874=36歳：少佐に進み、東京鎮台出仕後、再び兵学寮付を経て戸山学校付。旧土佐藩および幕府購入のシャスポー銃の改造掛を引き受け、造兵司兼務となる。

初の民間工場1875=37歳：諸外国軍用銃実視のため欧米諸国へ派遣され、パリでロシア公使榎本武揚に会う。自家製の後装銃でフランスの射撃大会に優勝、ニュースが伝わり、島津久光が喜ぶ。さらに、マルセイユの射的会優勝者と競射して圧勝、“創業以来の達人”的称号まで受け、名声を上げて帰国、戸山学校教官・砲兵本廠御用を兼務。

三つの反乱・1876=38歳：室内射撃銃を製作し、それまでの爆管消灯演習方式は廃止となる。進言して新軍用銃制定委員会が設置される。歐州に倣い、戸山学校に日本初の動的限秒射撃場を整備。

西南戦争・・1877=39歳：<西南戦争>に出向命令を受け、銃弾薬装備の実態を調査し改善策を進言、対策後再び戦場に向かい、反撃に合って戦傷を負う。小銃の国产化にあたって陸軍小銃試験委員会を命じられる。

大久保暗殺・1878=40歳：近衛兵射撃演習で、戦傷のため膝打ちを願い出、天皇の御前で10点満点。

—この間、外国銃との比較試験や工作機械を輸入するなどして、オランダ製ボーモン銃に改良を加え、

・・・・・ 1880=42歳：*旧日本軍初の正式小銃十三年式村田銃を完成し、陸軍の正式銃として採用された。戸山学校教官を退官し、東京砲兵廠工所専務となる。中佐に昇進。以後も研究、改良を重ね、

明治14年政変1881=43歳：

新体詩抄・・1882=44歳：青山の射撃大会で満点。

岩倉具視没・1883=45歳：陸軍歩兵大佐に昇進。

秩父事件・・1884=46歳：軍刀の改良を成し遂げ、将校用の刀として採用される。

内閣発足・・1885=47歳：十三年式村田銃を改良した十八年式村田銃を完成、

帝国大学始・1886=48歳：村田銃制式図制定される。

—この間、村田銃大量生産体制も整う。

初の対等条約1888=50歳：「村田銃保存法」制定され、士官学校の小銃が全て村田銃に交換される。

帝国憲法發布1889=51歳：前床弾倉式連發銃の二十二年式村田銃を完成。ヨーロッパ歴訪の旅に出、イタリア皇帝に連發銃を献上。

帝国議会始・1890=52歳：*帰国。少将に昇進、予備役に編入され、貴族院議員に勅選される。

大本教・・・1892=54歳：

郡司千島探検1893=55歳：村田連發銃の実包製造開始、

日清戦争始・1894=56歳：日清戦争に用いられた。

日清戦争終・1895=57歳：陸軍省が村田連發銃使用法を制定。

白馬会・・・1896=58歳：功により男爵を授けられた。

八幡製鉄始・1897=59歳：海軍が陸軍に村田連發銃の弾薬製造を依頼する。

ピアノ国产化・1900=62歳：弓の実験を開始。

田中正造直訴1901=63歳：

日比谷公園・1903=65歳：この年、村田連發銃が初めて清国に輸出される。

日露戦争終・1905=67歳：弓術研究の成果「射術提要実験と理論・矢の部」著述。

満鉄発足・・1906=68歳：この頃、健康を損ね、

—一時、肺炎で赤十字病院に入院。

韓国併合・・1910=72歳：

明治天皇没・1912=74歳：

ベーリー条約・1919=81歳：

原敬首相暗殺1921=83歳：没した。